

# 廃業が事業承継か

## 松井ニット「あと1年」

### 技術習得と機械の継承が壁に



松井ニット独特の風合いを生む低速ラッセル編み機。戦後間もない時代から動くこの機械の扱いが困難で、事業承継の壁となっている。

……  
ち上げ、国内外で高い評価を受けてきた。

智司さんの死去後、二人三脚で経営してきた弟で元商社マンの敏夫社長が引き継いだ。従業員全員が60、80代と高齢化し、負債もないことから、22年までに全員いったん退職してもらい、必要な時期だけ工場に呼び戻す形で経営を継続。新

す形で経営を継続。新型コロナウイルス禍による売り上げ減少もあり、今年2月の決算期で廃業することも考えた。

「松井ニット」を守ろうと、県が昨年9月から、企業の合併・買収(M&A)を仲介するパトンス(東京都)の運営サイト「ミライマッチング」で承継者を募集。数組の応募があったが、独特のやさしい風合いを生み出す年代物のラッセル機を受け継ぐ難しさが壁となり、現時点で後継ぎは決まらないうまま、同サイトを通じた募集は2月末で終了した。

県地域企業支援課の板野浩一課長は「群馬が誇る世界的なブランドがなくなるのは寂しい。サイトを通過した募集は終了するが、引き続き事業承継の可能性があれば支援したい」としている。

敏夫社長は「若くて熱意のある人も訪ねてきたが、技術の習得に時間がかかることや、古い機械の大変さを知り、諦めてしまう。この人なら大丈夫という人が現れば承継したいが、並大抵ではない」と話す。

### 星野の天ぷら粉

カラッと揚がりサクッと軽い  
使いやすい分包



300g(100x3) 分包



星野物産株式会社

### 高園寺の本堂でヨガ

#### 30日「心と身体を整える」

「心と身体を整える」お寺YOGAが30日、桐生市梅田町三丁目の高園寺本堂で開催される。主催は当日の講師を務める大嶋由香里さん。同町四丁目の田中商店が作るカルシウムが豊富なポタージュスープも付く。

大嶋さんは同市地域包括支援センター山育会(同市東久方町二丁目)に勤める保健師。これまでも骨粗しょう症を生活習慣の中で予防しようとして、田中商店に協力を呼び掛け梅田地区の介護予防サロンで地元産の材料を使ったカルシウムなどが豊富なスープを提供していた経緯がある。「ヨガをきっかけに梅田町を訪ねてもらい、その魅力を知らせてもらえたら」と大嶋さんは話す。時間は午後2時〜同3時半。料金1500円。定員10人。ヨガマッ

い。サイトを通じた募集は終了するが、引き続き事業承継の可能性があれば支援したい」としている。

敏夫社長は「若くて熱意のある人も訪ねてきたが、技術の習得に時間がかかることや、古い機械の大変さを知り、諦めてしまう。この人なら大丈夫という人が現れば承継したいが、並大抵ではない」と話す。

同社は、少なくとも今年秋向けの新作の企画・製造と「桐生ファッショングイーク」での恒例の販売会までは事業を継続し、自社サイトでのネット販売も続ける意向。向こう1年前後の間に後継者が現れなければ、桐生が生んだ世界企業「松井ニット」の灯が消える。

ット、タオル、飲み物を持参する。

申し込みは、「高園寺ヨガ」と名前を明記し、大嶋さん(ショートメール090・2722・6687)へ。締め切りは25日。問い合わせも大嶋さんへ。

ベリーダンス体験20日まで受け付け  
24日多世代交流館で  
みどりの市大間々公民館主催の「ベリーダンス体験教室」が24日、同市多世代交流館で開催される。申し込み受け付けは20日まで。

ベリーダンスは古代エジプト発祥の踊り。今回は伊勢崎市にスタジオを構えるベリーダンスチーム「GRACE」主宰のミスエさんを講師に迎え、幼児から年配の人まで幅広く踊れる体験教室を開催。対象はみどりの市在住または在勤の女性で先着30人。年齢制限はなく参加無料。

時間は午後1時半〜同3時半。申し込み問い合わせは大間々公民館(電話76・2310)へ。

マルチカラー(多色使い)ストライプのマフラーで世界的に有名な松井ニット技研(桐生市本町四丁目、松井敏夫社長)が、今秋向けの新作を最後に、廃業する可能性がある。県などの支援で事業承継の道を探ってきたが、独特な編み技術の伝承が難しく、現時点で後継者は決まっていない。松井社長(80)は「従業員が高齢化し、これ以上続けるのは難しい。熱意があっても信頼できる人が引き受けてくれない」と、承継の難しさを語る。

マルチカラー(多色使い)ストライプのマフラーで世界的に有名な松井ニット技研(桐生市本町四丁目、松井敏夫社長)が、今秋向けの新作を最後に、廃業する可能性がある。県などの支援で事業承継の道を探ってきたが、独特な編み技術の伝承が難しく、現時点で後継者は決まっていない。松井社長(80)は「従業員が高齢化し、これ以上続けるのは難しい。熱意があっても信頼できる人が引き受けてくれない」と、承継の難しさを語る。

マルチカラー(多色使い)ストライプのマフラーで世界的に有名な松井ニット技研(桐生市本町四丁目、松井敏夫社長)が、今秋向けの新作を最後に、廃業する可能性がある。県などの支援で事業承継の道を探ってきたが、独特な編み技術の伝承が難しく、現時点で後継者は決まっていない。松井社長(80)は「従業員が高齢化し、これ以上続けるのは難しい。熱意があっても信頼できる人が引き受けてくれない」と、承継の難しさを語る。

マルチカラー(多色使い)ストライプのマフラーで世界的に有名な松井ニット技研(桐生市本町四丁目、松井敏夫社長)が、今秋向けの新作を最後に、廃業する可能性がある。県などの支援で事業承継の道を探ってきたが、独特な編み技術の伝承が難しく、現時点で後継者は決まっていない。松井社長(80)は「従業員が高齢化し、これ以上続けるのは難しい。熱意があっても信頼できる人が引き受けてくれない」と、承継の難しさを語る。

### マッチング 今秋の新作が最後か

松井ニットは1907(明治40)年に鮮魚店から織物業に転身して創業。初代の松井實さんの妻・タケさんが戦後の53(昭和28)年にラッセル(たて編み)機を導入してニット業

を始め、映画「君の名は」で流行した「真知子巻き」のストールが大ヒット。輸出で業績を伸ばし、70年代からは「ヒギ」「コムデギャルソン」など有名ブランドのOEM(相手

先ブランドによる生産)を手掛けてきた。マルチカラーストライプのマフラーは、實さんの長男・智司さん(2020年没)が印象派の絵画に影響を受けて開発。1999年か